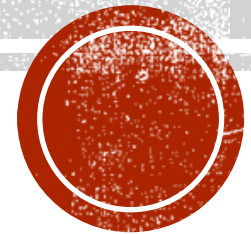


文庫さんアンケート 結果報告



伊藤忠記念財団 文庫助成事業部

2020年3月から5月にかけて、当財団が実施した
アンケートの集計結果を報告します。

過去20年間に、当財団の「子ども文庫助成」を受領された
全国の地域文庫、家庭文庫を対象に調査を行い、
最終的に約400件の文庫さんよりご回答をいただきました。

ご協力いただいた文庫の皆様、誠にありがとうございました。



【1】 文庫さん来庫者数（1か月当たり）

1回の開庫につき2-3名の子どもたちしか訪れない文庫さんが30%を占めている。
5-6名以下だと60%まで達している。

■ 1か月当り来庫者数

利用者数	団体数	占有率
10名以下	76	29%
11～30名	85	33%
31～50名	49	19%
51～100名	34	13%
100以上	16	6%
合計	260	100%



【2】 文庫さん稼働状況

15年前に当財団から受領された文庫さんの現在の稼働率は概ね半数程度。
設立年から推計すると平均的に25年以上は活動を続けているようです。

受領年度	回答数	稼働数	稼働率
2000-2004	114	61	54%
2005-2009	102	62	61%
2010-2014	98	81	82%
2015-2019	81	75	92%
	395	274	70%



【3】 当財団の受領を受けた効果

主な回答	項目
図書の実	・ 利用者が増え、図書の貸出が増加した。
	・ 科学絵本や図鑑等の高額な本の購入が出来た。
	・ 文庫の宣伝となった。
	・ 子ども達に対し、読書の機会を充実する事が出来た。
備品の充実	・ 書架を新しくした事で、収納量が増えたり、表紙を見せる展示が出来る様になった。
	・ 大型紙芝居やパネルシアター舞台等、高価な備品を購入でき、学校や幼稚園での読み聞かせ等活動の機会が増加した。
その他	・ 助成を受けた事で地域社会から信頼を得た。
	・ 研修会等を開催でき、文庫の手伝いをする人が増えた。
	・ 贈呈式に出席して他の団体の活動状況等が聞けた。



【4】文庫活動の課題

主な回答	項目
利用者の減少	・ 家庭文庫に足を運んでももらえない。
	・ 本は好きだけど文庫は知らない人たちへの周知必要。
	・ 高学年の来館なし、利用者は幼稚園児のみ。
	・ PTA、地域活動に参加しない若い世代が増加
	・ 読み聞かせは参加しても文庫活動に関心がない。
協力者の育成・確保（後継者を含む）	・ 働くお母さんや転勤者が多く、協力者の確保困難。
	・ ボランティアはお金がかかるため、現役世代が手伝いにくい。
	・ 読書アドバイザー資格保有者の減少、児童文学への理解不足。
	・ 高齢化の為できることが限られる。
子どもの読書活動をする他団体とのつながり	・ 最早、文庫を個人の思い込みで支えるのは無理、地域を巻き込んでいければ→家庭文庫の限界。
	・ 周辺の活動団体の減少で横の連携が取れない、交流の機会必要。



【4】文庫活動の課題

主な回答	項目
研修機会の減少	・自身のレベルアップ必要だが研修機会が減少。
	・現在の4-5歳児の話聞く能力は高く読書につなげていきたいが家庭の読書環境に左右されるため親への教育が必要 →定期的な勉強会開催が必要。
	・コロナの影響で夜間休日の研修ができなくなった。
その他	①運営資金不足：バザー収益、会費では限界のため助成金が必要。
	②文庫の役割に悩み
	・駅前から本屋が消え図書館が閉館し文庫の使命を感じているが何をすべきか、わからない。
	・日本の読書推進計画は学校図書館が主体であり文庫の役割は低下している。
	・県立図書館の分館ができ、学童クラブの充実、放課後学び教室開始、文庫として一定の役割を終えた。



【4】文庫活動の課題

主な回答	項目
その他	・ 社会の情勢に合わせ文庫の形態も変わるべき、イベントの開催では文庫の利用にはつながらない。
	・ 文庫が子どもと高齢者の交流の場→単なる居場所づくりに終始
	③デジタル化
	・ スマホの影響で本の貸し出し減少、本を進めても子供が手に取らない、漫画、好きな本のみ。
	・ SNS、ネットへのアクセスできる人材が必要、ブログ、インスタ配信不可欠
	→新時代への対応も知識・人材不足。



【5】課題に対する取り組み

主な回答	項目
活動の見直し	・ 現在の子どもたちに合わせた開庫日の見直し（日時、回数）
	・ イベントの開催：読み聞かせだけではだめ。工作や折り紙、コンサート、英語教室等、様々な分野とコラボした企画が大切。 →直接体験を通じて学ぶこと、友達と関わって遊ぶことへの手伝いや仕掛けが必要。
	・ 本の貸し出し増加：幼稚園、学童等に直接届ける。
	・ 文庫をやめ研修等イベント講座の開催に特化：自己啓発。現役世代に研修会機会を提供→全員のスキル向上
地域との繋がり	・ 学校、幼稚園、公民館等へ出向いて「読み聞かせ」を行う。
	・ 地域の読み聞かせ活動の『拠点』としての役割発揮。
	・ 子どもと大人が共に楽しめる地域の居場所づくり→読書に拘らない。
	・ 子ども食堂やNPO法人との連携、移動図書館の整備等



【5】課題に対する取り組み

主な回答	項目
広報活動	・市のサイトに登録し活動報告を更新して周知を図る。
	・HP開設、及び充実。行事等案内NETで
	・読み聞かせ動画や本の紹介をオンラインで紹介したら反響あり。 →来庫者数の増加
	・ネットワークで横のつながり強化
その他	・親が英語の本へ興味：2020年から小学校の授業開始に伴い
	・新しいプログラム、新しい文庫スタイルを検討
	・運営体制の組織化、読書推進協議会の発足
	・クラウドファンディングの活用検討

